あおもり民医連

2020年11月17日発行　第290号

【6面オールカラー】発行部数2,880部

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森県青森市中央１丁目6-8　3F
TEL. 017（723）4076　　FAX. 017（773）5326
URL　http://aomin.jp/　　e-mail　info@aomin.jp

県連入職一年目研修 自己学習形式で開催

県連教育委員会では例年、制度教育として一年目職員を対象に研修を実施していましたが、今年度は感染防止の観点から、自己学習による研修に変更しての実施となりました。

例年であれば、夏季に一泊二日で研修を実施しておりましたが、今年度は学習ブックレットを用いて個々で学習する形式としました。学習期間は七月～九月とし、一〇〇名以上が受講対象となりました。研修内容は、例年実施してきた研修内容の中で特に重点的に学習してほしい「民医連綱領」について、ブックレット読了の上、感想文提出という形式としました。また、これまでも研修参加前に職責者から本人へ研修意義の説明・動機付けをお願いしておりましたが、今回は自己学習ということもあり、研修中の声がけや質問に対する回答など、より一層の援助を職責者にお願いしている他、提出した感想文にも職責者からコメントをもらうことで、個人的な学習で終わらせないような研修としております。今後は提出された感想文への回答や報告集の作成なども検討しており、参加者及び職場へ学習内容をフィードバックしたいと思っております。

（県連教育委員会　／平井佑典）

あおもり協立病院リハビリテーション科での学習の様子

2020年度　県連入職１年目研修　民医連の綱領と歴史　感想文（一部抜粋※原文のままです）

◆福祉の制度を利用するにあたり、利用者の生活が立ち止まることなく出来るように制度を整備してくれた方たちの活動（社会保障）などを、初めて知ることがありました。この仕事に就いてなければ知らなかった事は、新聞、ニュースでは取り上げていたと思うが、見逃していた事がありました。一人の声が大になり、行政、関係機関を動かし制度の改善がされた事は、仲間の協力があり、綱領にもある、いのちの平等につながっているのだと感じました。

◆経済格差や失業などといったSDHが原因となり医療を受けることが困難な方に対して、「無料低額診療制度」があることを知った。お金のあるなしに関わらず医療を受けられる環境があることで、無差別・平等の医療を提供でき、多くの人の命を守ることできると感じた。「いつでもどこでも誰もが」安心して医療を受けられるようにするためには、社会保障の拡充、憲法９条・25条を守ることが不可欠であり、民医連の職員としてこれらを守る活動を行っていくことが大切である。

◆民医連の綱領と歴史を学ぶ中で、日本国憲法の重要性が明確となった。特に第９条、第25条は重要であり。個人的には25条が重要であると感じました。25条では国民の最低限度の生活の保障と明記され、その中で公的扶助として生活保護がある。しかし、現状の生活保護制度としては給付額に地域差があること、給付額の引き下げなどにより、受給者が生活出来ない状態である。本文でもあったように医療・介護難民の増加につながっている。そのため民医連で勤務する職員として、街宣活動や署名活動を行うことが重要であると考える。

◆社会保障運動では診療報酬が認められる前から経済的・社会的な理由で治療の中断や退院した在宅患者を訪問していのちを守る活動をしたと記載されていました。その活動により訪問看護の必要性を実証し保険適用になったのはすごい成果だと思いました。
民医連の活動は地域で安心して暮らす人々の手助けに繋がっていると思いました。

2020年度 初期１年目研修　職責者からのコメント（一部抜粋※原文のままです）

◆今回、綱領を学んだことで民医連看護の実践に興味を持っていただいたことはたいへんうれしく思います。人として生きていくために、患者のみならず地域の方の声を聞くこと、何が起こっているのか実態を知ることも必要となります。今後、民医連職員として今回学習したことを活かし活躍していただくことを期待します。

◆訪問看護は、実際、ご自宅に伺い、生活状況や取り巻くご家族を見ながら看護ケアを提供できる仕事なので、より密接に寄り添える職種だと思います。民医連に働く看護師として、これからも一緒に利用者さんやご家族、地域に暮らす方々の事例を通して考え、実践できればいいなと思います。

◆「人権を尊重する」ということを難しく捉えず、「その人らしく」を考えた上で、適切な医療やサービスを一緒に考えることのできる看護師になって欲しいと思っています。
人間（国民）としての権利を大切に守っていくことが「平和活動」にもつながっていきます。民医連の職員として「看護」だけではないところにも視点を向けて考えていけるよう期待しています。

◆色々な悩みや苦労を抱えた人が当院を利用しています。自分たちセラピストが力になれることは小さなことかもしれませんが、知識を持って接することや患者の生活や生き方を尊重することでよりよい信頼関係が築けると思います。

3密をさけてソーシャルディスタンスでの昼休みのため、少人数で入れ替わりながらのDVD学習（（一社）あおもり健康企画）

生活介護事業所「花束」・自立訓練（生活訓練）事業所（多機能型）「しばざくら」での学習の様子（社福法人 花）

生協診療所通所リハビリテーションで行われた学習の様子（八戸医療生活協同組合）

ナもコロ何　会で相　談

十月十日（土）九時～十九時県労連会館で第四弾・電話相談会が行われました。相談員は全体で十五名参加し、民医連からは柳谷円社保委員長と県連ＳＷ部会長の今泉さん、協立病院ＰＳＷ内藤彩子さんと県連事務局員津川が参加しました。

前回同様、県司法書士会から藤川達也司法書士や人権や貧困対策に熱心な横山弁護士と葛西弁護士も相談員として参加され、今回の電話相談会は三十七都道府県四十九会場で一一〇電話回線を準備し、相談員は三八九名という大規模なものでした。全国的相談件数は七七三件。全国各地の報告では「コロナ禍における生活費・給付・助成金の問題や住宅ローンや債務の相談が多い状況」との報告。手持ち金が千円以下の方が一〇四件もあり、非正規雇用や派遣職員の相談が多数を占めました。

電話対応する（一社）あおもり健康企画　柳谷専務

〈県内の相談内容例〉

・三十代女性：四月にコロナを理由に突然解雇され、持病があるにも関わらず継続療養や国保に加入しないまま現在に至っているケースで無料低額医療制度を勧めた。

・四十五歳女性：精神的ストレスから会社を辞め現在失業中。七十一歳国民年金の父と六十九歳国民年金の母、専門学校に通う息子二十歳と四人暮らし。四人で車三台、住宅ローンを含め、月々の返済が十三万円。支払いに追われる毎日、父と母の年金はすべて返済ローンに消えて行く状態。食費の工面すらできない状態。

・八戸市七十五歳男性：四月に解雇になり、ハローワークで仕事を探しているが見つからない、①住宅ローン（金融公庫）の返済四・五万（月）を猶予してもらえないか②カードローン（二〇〇万円枠）の三万円（月）支払いを何とかしてほしい③社協の小口融資十万円を受けたが二十万円の融資は受けられないだろうか④別居して部屋を借りているが三か月の滞納がある。何とかならないか⑤自己破産すれば年金は来なくなるのか。

矢継早の質問など複合的な相談が多く、元々生活基盤が安定していないなか、コロナの影響を受け失業や生活苦、収入減少に伴う債務が重くのしかかっています。私たち青森県社会保障推進協議会はコロナ禍で苦しんでいる一人でも多くの方の支えになればと思い全国に呼応して十二月十九日に第五弾を行う予定です。

（青森県社会保障推進協議会　事務局次長／津川文彦）

一般社団あおもり健康企画

あけぼの薬局 妙見店

新店舗オープン！

2020年11月2日（月）よりあけぼの薬局妙見店（以下妙見店）が新店舗オープンしました。

二〇〇六年のオープン以来、生協さくら病院をはじめとする青森保健の皆様や社福法人虹の皆様、そして地域の皆様に支えられて営業して参りました。心より感謝申し上げます。

妙見店は元々一軒家を改装し薬局としてオープンしました。近年サ高住さくらの薬管理や協立クリニック往診の在宅訪問も担い求められる役割が年々大きくなったため、薬局の中が手狭に感じていました。

新店舗ではすべてが広くなります。調剤室はもちろん、待合室が広くなることで近い将来健康教室を開催したい考えです。また無菌室もつくり、クリーンベンチを配備しました。多種多様化していく在宅医療に対応していきたいと思います。２Ｆでは会議室も新たに作られ、さっそく県連薬剤師二年目研修で利用する予定です。

患者様や職員の皆様にお役立ていただける薬局にしていきたいと思います。

これからも、これまで同様のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

（あけぼの薬局妙見店
薬局長／墓丸谷卓）

あけぼの薬局妙見店の外観

受付前の様子

広くて明るい調剤室

グループホームあおぞら

「デネブ」「アルビレオ」新築

2020年11月　障がい者グループホーム新築開設へ

グループホームあおぞら
「デネブ」と「アルビレオ」の外観

社会福祉法人虹では、障がい者グループホームあおぞら「橋本荘」、「玉川荘」、「オレンジ」の三ヶ所を運営しています。この度、青森市浪館にある「橋本荘」を移転することとなり、青森市問屋町に男性専用のグループホーム、「デネブ」（一階定員六人）と「アルビレオ」（二階定員六人）を新築開設することになりました。

新しいグループホームの名称は西脇巽理事長が命名し、星にちなんだ名称が良いとのことで、星座の〝はくちょう座〟から引用し、はくちょう座の目印で一番輝いている白鳥の尾にあたる「デネブ」と、口にあたる美しい二重星の「アルビレオ」となりました。

利用者様は、就労事業所やデイケアなどに通いながら、自立した生活を目指しています。グループホームでは、利用者様同士の支え合いもありますし、スタッフが少しだけ生活面や心配事のお手伝いをすることで、地域の中で自分なりの生活を送ることができています。利用者様やご家族からは、「新築だと快適に住めそう」「障がい者が利用できる社会資源や安心して住める住居が少ないので、グループホームが増えるのは嬉しい」などという声も聞かれています。これからも、利用者様が社会から孤立せず、自分らしく生活できるよう、日々努めていきたいと思っています。

（社会福祉法人虹グループホームあおぞら／所長　佐藤織恵）

明るい雰囲気の室内

広くてきれいな浴室

事業所利用委員会主催 医療講演会

～新しい心エコー機への期待～

八月二十九日（土）事業所利用委員会主催医療講演会を開催しました。

講師の澤岡医師から、心エコー機の位置づけについて、いくつかの症例を用いながら、検査からどのような所見を観察して診療につなげているかを解説していただきました。参加者の多くがメモをとりながら熱心に聞き入り、検査や健診についての印象が変わった様子が見受けられました。質疑応答では、ペースメーカー治療や副作用、機能についてなどの質問が次々に出されました。

全体として参加者の満足度は高く、アンケートでは「よりあおもり協立病院を人に勧めたくなった」という意見が全体の九十四％以上を占めました。コロナ禍での開催でしたが、普段支部や班とのかかわりのない方の参加も見られ、心エコー機への関心の高さを再確認しました。

（青森保健生活協同組合 本部・組織部／三上絵里菜）

会場の様子

講師　協立クリニック　澤岡孝幸 所長

#いのちまもる

医療・社会保障を立て直せ！

10・22総行動 with20

秋の看護・介護ウェーブ

10月22日（木）12：00～12：30イトーヨーカドー青森店前にて、『安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための国会請願署名行動』を行い、青森民医連・青森民医連労働組合より27名が参加しました。

青森民医連と青森医労連の共闘の取り組みとして毎年代表を送り出してきた日比谷野外音楽堂での「国民集会」ですが、今年は新型コロナウイルス感染防止を考え、従来の集会・銀座パレードに結集せず、県境をこえて参加できない組織・職場での集会の動画配信視聴をはじめとする総行動へ変更となりました。これを受け青森県での「10・22総行動」の取り組みを、例年共闘でおこなっている「秋の看護・介護ウェーブ」としても位置付け、感染予防対策をしたうえでの署名行動に取り組みました。当日はお昼にも関わらず少し寒さを感じる気候でしたが、多くの方に署名に協力いただき、地域の皆さんに大いに『安全・安心の医療・介護の大切さ』をアピール出来た行動となりました。

（青森民医連／山口理香子）

数多くの署名をいただきました！

11月 2020年11月

第7回理事会報告

- >> 全日本民医連理事会報告
- >> 決裁事項
  - 看護学生奨学生申請
  - 三浦医師着任に伴う紹介料の県連負担についての提案
  - 看護師支援のお願い
- >> 協議事項
  - 新型コロナウイルス対応について
  - 上半期経営報告
  - 医師待遇小委員会報告
  - 県連学運交　延期について
- >> 県連医師委員会関連
- >> 会務報告/各委員会報告
- >> 共闘関係
  - 消費税無くす会総会・学習会
  - 11/7(土)13：30-　リンクステーションホール

ヒバクシャ国際署名をすすめる青森県連絡会

第4回 総会・記念映画会 開催

10月11日（日）13時より、ヒバクシャ国際署名をすすめる青森県連絡会　第４回総会・記念映画会が、青森市のシネマディクトで行われました。

先に映画「ヒロシマ　ナガサキ　最後の二重被爆者」を上映しました。二重被爆者とは広島と長崎で二度被爆した方のことです。映画には二重被爆者が３名登場し、うち１名は青森の方でした。上映後に挨拶をされた稲塚監督は、午前その方にお会いになったそうです。映画で印象的だったのは３人の１人、山口さんがアメリカの学生の前や国連などで講演するのですが、当時を思い出して言葉に詰まって顔をゆがめる場面です。同じようなシーンが何度も出るのですが、そのたびに胸を打たれ涙がこみ上げました。映画のサブタイトルのように「人間の世界に核はいらない」と改めて思いを強くしました。

稲塚秀孝監督挨拶の様子

連絡会ですすめている署名は年内続け、来年開催される「NPT再検討会議」に提出するそうです。核兵器禁止条約も47か国が批准し、年明け早々にも発効する見通しですが、日本や核保有国、先進国の姿勢を変えないと核はなくなりません。引き続き運動に励みたいと思います。　（青森民医連　事務局長／佐藤真人）

県連事務局人事往来

県連には2016年11月より約４年間お世話になり、主に医師研修担当として経験をさせていただきました。先生方をはじめ多くの関係者の皆様に支えていただき本当にありがとうございました。帰任後は健生黒石診療所へ配属となります。今後もこの経験を活かして頑張りたいと思います。

帰任　坪井（つぼい）　愛彦（よしひこ）

（青森民医連弘前事務所（医局医学生課）⇒健生黒石診療所）

青森県民主医療機関連合会

青森事務所 移転のお知らせ

９月５日に青森事務所は移転しました。中部クリニックから歩いて５分以内です。来訪してくださる皆さんには「前より室内が明るい！」「３階までの階段は、運動不足にはキツイね。」と様々な感想を頂いてます。来訪者用の駐車場を３台確保していますので、ぜひお気軽においでください。

事務所内の様子

こちらのビル３階に移転しました

青森県民主医療機関連合会　青森事務所
住所　〒030-0822　青森市中央１丁目6-8 ３階
電話　(017) 723-4076
FAX　(017) 773-5326

あおもり民医連 290号 発行日 2020.11.17 発行部数 2,880 枚 AOMORI MIN-IREN

うちのメゴっこ vol.59

♥ name にこり
♥ age 3歳

我が家のめごっこを紹介します。どちらの写真も去年、旅行に行ったときに撮ったもの。

写真を撮るといつもこの顔で笑ってくれます。はじける笑顔を見せてくれる我が家の娘の名前はにこり。名前の通りの子になりました（笑）。

こんな風に家族で気兼ねなく楽しく旅行できる日が来るのが待ち遠しいです。またいろんな所に行って、新しい笑顔を発見していきたいなぁ。

コロナが早く終息しますように！マスクなしで笑い合える日々が戻りますように！

コロナ禍で日々医療に福祉に奮闘する皆さま、本当にお疲れ様です！笑顔で共に乗り越えましょう(*^_^*)/

（健生クリニック　地域連携室／中村花奈子）

私の三つ星★★★

オススメ

古民家カフェ「apricot（アプリコット）」

玄関の様子

お店は浅虫温泉駅から徒歩５分くらい。みちのく銀行近くにあります。古民家ならではのレトロな雰囲気で、落ち着いて過ごすことができます。

メニューは、ランチプレートやタコライス、ナポリタン、飲み物もいろいろな種類があります。夏は、あじさいクリームソーダというあじさい色のゼリーが入っているクリームソーダがありました。ランチプレートは日替わりで、季節のお野菜をたくさん使っています。

私が行った日のワンプレートのメニューは、マイタケご飯、煮込みハンバーグ、もやしと枝豆のマリネ、茄子の揚げびたしなどで、どれも美味しかったです。舞茸ご飯がとてもおいしく、作り方を聞いてしまいました。自家製ジンジャエールもおすすめです。お休みの日に、浅虫の足湯をめぐり、お昼にランチをするコースが私のお気に入りです。

（大野あけぼの薬局／藤田恵里）

日替わりのワンプレート

●チケット取り扱い先

【青森市】	
成田本店新町店	TEL 017(723)2431
青森県労働組合総連合	017(762)6234
新日本婦人の会青森県本部	017(762)1592
青森県民主医療機関連合会	017(723)4076
【八戸市】	
ポータルミュージアムはっち	TEL 0178(22)8228
【弘前市】	
中三弘前店 1Fインフォメーション	0172(34)3131
弘前大学教職員組合	0172(34)5539
弘前読書人倶楽部	0172(33)4033